

# ちょっとためになる歯と骨の話

著 広島大学名誉教授/滋慶医療科学大学院大学教授 岡崎正之

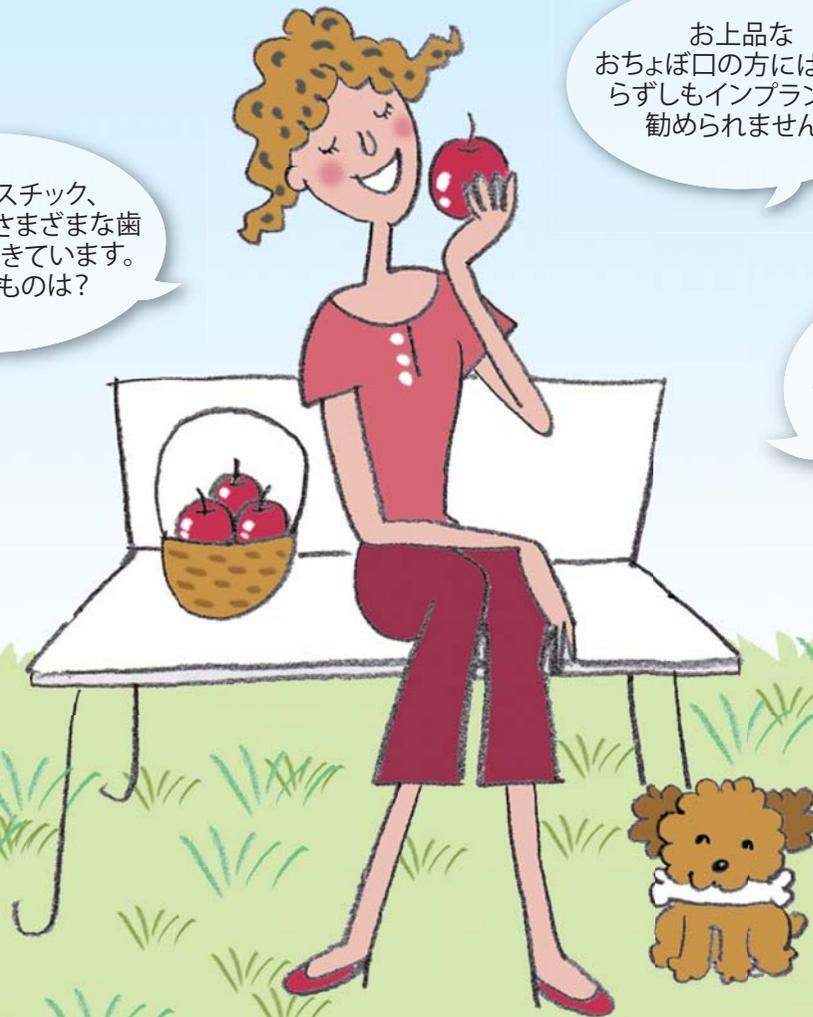
A5判/129頁/定価(本体2,000円+税)/ISBN978-4-7624-0684-3

皆さん、入れ歯に期待しすぎていませんか？  
うまく合ったらラッキーと思ってください。

金属、プラスチック、セラミックス、さまざまな歯科材料が出てきています。  
一番いいものは？

遺伝子的に丈夫な歯をもって生まれてくる方もあります。しかし、そういう人にかぎって歳をとると歯周病に悩まされることも少なくないのです。  
ご用心! ご用心!

ちょっと待ってください。健康な歯とは、かならずしも白い歯ということではありません。



お上品なおちょぼ口の方には、かならずしもインプラントは勧められません。

入れ歯は、こんなふうにしてつくられます。

歯周病にかかると、かなりの歯が一度にぐらついてくることもよくあります。歯に自信をもっていた人ほどショックは大きなものになります。アラフォー世代は要注意!

早い人では40歳くらいから骨の吸収が促進され、気がついたら骨がスカスカになっていたということもあります。

知っているようで知らない歯のはなし、入れ歯やインプラント、アパタイトやコラーゲンなど、歯と骨にまつわる、ためになるおもしろばなしを一席。

主要目次

Part 1 なるほど納得、歯の材料の話

- 1 若い人にもぜひ知っていただきたい話
- 2 入れ歯の話
- 3 8020運動の落とし穴
- 4 インプラントの話
- 5 コンポジットレジンの話
- 6 お歯黒の話
- 7 意外に知られていない歯のなり立ち
- 8 白い歯って？

- 9 歯が再生しないのはどうして？
- 10 骨は勝手に再生する
- 11 むし歯はこうしてつくられる
- 12 歯周病の危険性
- 13 歯磨きの大切さ
- 14 歯ブラシと歯磨き粉の話
- 15 骨粗鬆症って？
- 16 骨はミネラルの貯蔵庫
- 17 宇宙飛行士の話
- 18 2種類以上の物質が混合して1つの結晶をつくる「混晶」

- 19 歯科矯正の話
  - 20 金属アレルギー
  - 21 歯と骨の再生
  - 22 仏歯寺の話
  - 23 年代測定と法歯学の話
- Part 2 ちょっと役立つ歯と骨の専門知識
- 1 アパタイトって何？アパタイトの不思議な世界
  - 2 歯の構造
  - 3 骨の構造
  - 4 しなやかさを与えるコラーゲンの話

- 5 ヒアルロン酸の話
  - 6 筋肉・腱・靭帯の話
  - 7 痛風と偽痛風の話
- Part 3 ちょっと役立つ歯科材料の知識
- 1 歯科材料のいろいろ
  - 2 金属の話
  - 3 日本刀の話
  - 4 プラスチックの話
  - 5 セラミックスの話
- ここで一服 お茶の四方山話
- Part 4 補綴物ができあがるまで(つくり方)

- 1 印象の採り方と模型のつくり方
  - 2 鋳造の話(鋳造とは)
  - 3 重合の話(入れ歯のつくり方)
  - 4 ワックスの話
  - 5 焼成の話
  - 6 CAD・CAMの話
  - 7 寸法の話
- Part 5 人工骨用材料の変遷と将来への展望
- Part 6 からだに優しい材料とは

内容見本

Part 1 ●なるほど納得、歯の材料の話



若い人にもぜひ知っていただきたい話

あたり前のことですが、骨は再生しますが、歯は傷つくと、もとはに戻りません。だから、どうしても歯科材料が必要になります。もちろん使わなくてすむならば、それに越したことはありません。残念ながら、今の歯科材料や技術では完全に天然歯とそっくりのものをつくることはできません。歯を失ったことを歳をとってから後悔しないためにも、日ごろから歯に配慮し、十分なケアを心がけることが大切です。

入れ歯の話

皆さん、入れ歯に期待しすぎていませんか？ 入れ歯は合ってあたりまえと思っていまいませんか。うまく合ったらラッキーと思ってください。というのは、歳とともに日々身体は変化していきます。口の中も変化しているのです。どんなに上手につくっても合わなくなる場合があります。メガネが合わなくてもメガネ屋さんや眼科医のせいにはしません。ところが、入れ歯が合わない「歯医者さんがへたくそだ」、「技工士さんの腕が悪い」と愚痴をこぼします。これは間違っ

ています。ただ、器用さの違いはあるようです。歯肉の変化を長年の経験から見越して、うまく合わせることでできる歯医者さんや歯科技工士さんはいらっしゃいます。うまく両者の連携がとれていると、なお良いでしょう。

歳とともに視力が悪くなってくるように、口の中も変化したり悪くなってきます。期待するできあがりではなくても、現実を受け止め、よしとすることも、ときには必要です。

歯科界の隠語に「ポケットデンチャー(衣服のポケットに入れたままの入れ歯)」という言葉があります。これは、いくつもいくつも入れ歯をつくって、ほとんど使わずにポケットやタンスの引き出しに入れておいた入れ歯をからかった言葉です。最初につくった入れ歯が合わない」と、歯医者さんや歯科技工士さんの腕が悪いと



骨は勝手に再生する

一方、骨は四六時中代謝を繰り返して、古い骨が吸収され新たな骨がつくられています。破骨細胞は、破壊しようとする骨の部分に覆って酸(水素イオン)を出し、アパタイトを溶かしま

す。一方、骨芽細胞はそれら溶け出したカルシウムやリンを使って、せっせと骨をつくりま

す。このバランスが見事に維持されているのです。この再生能力のおかげで骨が折れても自然に身体が治してくれます。したがって、骨折や小さな骨の欠損部位では、とくに人工材料を必要としません。ただ、大きな部位や再生能力の低い部位では人工骨の助けが必要になってきます。つまり、骨の再生能力も歳とともに衰え、